平静２６年度　第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成２６年５月２７日（火）

【平岡館長】　　ただいまから平成２６年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会いたします。

今年度から、この運協として新たな期に入りますので、委員長、副委員長が決まるまでの間、コミュニティ文化課長の平岡のほうで進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。初めに、委員の委嘱等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局（吉川）】　　前回の協議会のときに、委員の皆様に継続して委員になっていただけるということを内諾いただきましたので、本日、委嘱状を用意させていただきました。今後とも、２年間、どうぞよろしくお願いいたします。

【平岡館長】　委員の皆様におかれましては、引き続きお引き受けいただきまして、ありがとうございます。委嘱につきましては、大変恐縮ではございますが、机の上に委嘱状を置かせていただきましたので､そちらをもって委嘱に代えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、先ほども申しましたとおり、新たなスタートというところでございます。引き続きのお願いをしているところでございますが、一言ずつ、お話をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

【村澤委員】　　村澤です。小金井市に住み始めて２０年ぐらい。ただ、生まれが隣の三鷹市なので、ちょっとこの辺にはなじみがあるということでありまして、引き続きではありますけれども、よろしくお願いいたします。

【上田委員】　　上田郁子と申します。私がこの委員に立候補というか、やりたいというふうに手を挙げたもともとの理由が、ここが中村研一さんのお屋敷でありアトリエであるというところにすごく魅力を感じて、２年間、運営協議会の委員をやらせていただいたんですけれど、いろいろなことを知ったり、いろいろな思いをするうちに、そのことをちょっと忘れていたかな、なんて最近思っていたので、新たな２年間、ここの美術館全体のたたずまいというか、アトリエ、お屋敷だったことの魅力を考えながら、また参加させていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

【山村委員】　　山村です。私は、住まいが埼玉県飯能市、ちょっと遠いんですけれども、

職場が府中市ということで、府中市美術館のほうで、もう二十何年ですかね、になりますけれども、学芸員、それから学芸課長、今、副館長という形でやらせていただいています。２年間経つんですけれども、もう少し役に立つというか、何か貢献できればなと思いながら、なかなか貢献できないなというような、そういう、残念だなというふうにちょっと思っていまして、また幸いにして、この委員をやらせていただけるということなので、何らかお手伝いできることとか、もしそういう機会がありましたら、ぜひ使っていただければなと思いますので、よろしくお願いいたします。

【河合委員】　　小金井市教育委員会指導室長の河合です。お世話になります。よろしくお願いします。はけの森美術館のほうには、小学生が鑑賞教室ということでお世話になっております。大変いい経験をさせていただいていると思っております。ありがとうございます。また今年度も委員ということで、微力ながら支援させていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【平岡館長】　　では、最後に、コミュニティ文化課長をしております、当館の館長を兼務であります平岡です。よろしくお願いいたします。私も着任して２年目に突入しまして、去年はちょっとわからないままやってきたところもありましたが、なかなか皆さんの期待に応えるようなところまで館のほうを持っていくのがすごく難しいなと痛感しているところでございますが、引き続きおつき合いをいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

あと、本日、所用でおくれていらっしゃいますけれども、鉄矢先生に引き続き委員になっていただいておりますので、この場ではご紹介のみさせていただきたいと思います。

それでは、事務局のほうを紹介させていただきますが、基本的に、前回と事務局のスタッフは変わってございません。今年度も同じメンバーでやってまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日、皆様のお手元にお配りをしている資料の確認を先にさせていただきます。それから、昨年度、こちらのお部屋ができたこと等を勘案してつくり直しをしました当館の新しいリーフレットになります。前回は横長になっていたんですけれど、今回はこちらの縦長のタイプに変えさせていただいております。あわせてごらんいただければと思います。あと、市の職員以外の委員の皆様には、先ほどご説明したとおり、机の上に委嘱状を置かせていただいておりますので、ご確認いただければと思います。

それでは、５番目の正副委員長の互選に入ってまいりたいと思います。小金井市立はけ

の森美術館条例施行規則第６条第１項の規定によりまして、委員長・副委員長は委員の互選によるとしているところでございますが、手続等について、特に皆様のほうでご提案がなければ、私のほうで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【村澤委員】　　鉄矢さん、まだお見えでないですけれど、よろしいんでしょうか。

【平岡館長】　　はい。そうですね。先生には、事前にお話はさせてはいただいておりますので、もしよろしければ、このまま進めさせていただければと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。一応、前回も鉄矢先生に委員長をお願いしているところでございまして、今後も引き続きお願いしたいというふうに考えております。皆様のほうで特に問題がない、支障がないということであれば、先生のほうに引き続きお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。では、そのような形でお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

あわせて副委員長の互選ということなんですが、前回は上田委員にお願いをしておったんですが、そのときの会議録を拝見しますと、特に役職として、お仕事としてはというふうに鉄矢先生がおっしゃってはいたんですが、お時間になかなか見える状況もないと進行等をお願いすることになってしまいますので、特段打ち合わせをしていなくて恐縮だったんですが、もし差し支えがなければ、実際進行は山村委員にお手伝いをいただいたことがございますので、副委員長をお願いできればと思っておりますが、よろしいでしょうか。

皆様のほうでよろしければ、そのような形で今回、これからの２年間は鉄矢委員長、山村副委員長ということでお願いできればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、以上で、私の進行の役は全て終了いたしましたので、以後は、本来でしたら鉄矢委員長なんですが、まだお見えになっていらっしゃいませんので、山村副委員長にこの後、進行はお譲りしたいと思います。

【山村委員】　　わかりました。それでは、鉄矢委員長がいらっしゃるまでの間、かわりに会議の進行を務めさせていただきます。

今、次第の５まで進みましたので、６の「平成２５年度事業報告」について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（吉川）】　　それでは、平成２５年度全体の事業の概要についてのご説明をさせていただきます。

資料１－２に事業概要が載っておりますが、昨年度は、美術館だけではなく、コミュニティ文化課の芸術文化事業のほうも盛りだくさんございまして、その中で、美術館も所蔵作品展と、一般財団法人地域創造から助成をいただきまして、「コレなんだ？　佐藤慶次郎のつくった不思議なモノたち」というかなり大きな展覧会をやりました。

それと、何度かご説明させていただきましたけれども、５市共同事業といって、近隣５市で主催して行う事業が昨年度、小金井市が幹事市でしたので、市内のアートＮＰＯと協力して、７月から３月まで造形や踊り、歌、音楽のワークショップをやった中で、はけの森美術館でも最後の成果の展覧会を行いました。

あと、市制施行５５周年事業というのがございまして、そこにお配りしている『中央線が好きだ。』というＪＲの冊子に載った関係で、後ほど説明すると思いますけれども、美術館でワークショップを１件、冊子の特典のワークショップというのもやりましたので、美術館自体の展覧会をやりつつ、地域と連携したり、また、企業と連携したりということで、なかなか忙しい平成２５年だったかと思います。

その中で、地域の「こごうちぶんこ」と一緒にお話を聞きながら、親御さんには展覧会を見てもらうというような取り組みも始まりましたし、また、アニメーションの背景美術家である牟田いずみさんに、水彩画のワークショップ等もやっていただくということもありました。

また、先ほど指導室長から話がありましたけれども、鑑賞教室も市内９校全部、見に来ていただいておりますので、いろいろな取り組みをした中で、はけの森美術館も知名度的には上がっているのではないかというふうに思っております。詳細な内容はここに書いてあるとおりでございますので、２５年度はちょっと忙しい、慌ただしいような美術館の事業だったというふうに思っております。

以上です。

【平岡館長】　　あと、ここで、２５年度の前回の運協からこれまでの間に開催されたものについて、あわせて簡単に報告をお願いできればと思います。

【中村学芸員】　　右端に「資料１」と書いているものがございますので、そちらに、平成２５年度に開催された展覧会・ワークショップについて、まとめてございます。

まず、先ほどお話がありました「タマのカーニヴァル　はけの森展　はじまりの造形―まねること・くりかえすこと　リズムの起源」という展覧会を行いました。その日程が３月４日から３月２３日、５市共同事業実行委員会が主催で、今回企画などの運営主体は、

ＮＰＯ法人アートフルアクションが行って、協働という形で行ったものでした。入場者数が８５３名ということで、１日平均でいいますと、４７名。無料ということもあったので、通りがかった散歩の方とか、そういった方も見ていただけたので、短い期間でしたが、多くの方に見ていただけたと思っております。

こちらの展覧会なんですが、関連企画が非常に多いものになっておりまして、毎週末あるようなものでした。最初のスライドが「タマのカーニヴァル」の本番のカーニヴァルの映像というか、写真も何枚かつけているんですけれども、もともと「タマのカーニヴァル」の集大成としては、２月２２日と２３日の土日に小金井市内をカーニヴァルするというのが大もとのものとなっておりまして、そちらも何枚かごらんいただきたいと思います。こういう、着ている衣装などをこの美術館のここの部屋で創作などをしました。（スライド画面）こういった形で、市民交流センターとイトーヨーカドーの間の広場で、パフォーマンスしているところです。これが、市民交流センターの中で、歌であったり踊りであったり、を発表して、２２日、２３日に発表は終わったんですけれども、これを受けた形で行われた展覧会が、３月４日から当館で行われたものとなっています。

こんな感じで、結構、思った以上の方に来ていただいたイベントにはなっているんですけれども、展示はこういった形で、いつもの、当館のほうへ来てもらうのと異なるような形ではあったんですけれども、関連企画のほうが今回の展示は多くなっていまして、まず、順番にご説明しますと、縄文編布の研究をされている尾関先生という方がいらっしゃいまして、３月１５日に編布づくりのワークショップを行いました。この方が、またこういう感じで、みんなでこの部屋で縄文編布というのをつくっているんですけれども、小さい子から年配の方まで集まって、こういった形で、小さいコースターをつくるというワークショップでした。

こちらが３月１６日、次の日ですね。縄文編布をつくった次の日なんですが、レクチャーということで、今回、「はじまりの造形―まねること・くりかえすこと　リズムの起源」というテーマに迫るような形で、尾関清子先生だけではなくて、渡辺公三さんという立命館の教授の方ですとか、井戸尻考古館の樋口学芸員、館長、あと、島さんという、本展覧会のアドバイザーをされていた方などが集まりまして、それぞれ、縄文に関するお話をされた後に、また座談会をするという形式のものでした。

縄文の衣装を着られた方が来られて、本当に仕込みではなくて、一番左の方は、個人で縄文の服を着られて、遊びに来られたというか、来られた方がいらっしゃって、根強い縄

文ファンの方も来ていただいたので、いつもとは違う客層の方にも足を運んでいただけたのかなと思います。

こちらが、次のページになるんですが、３月２２日に行われた詩の朗読のパフォーマンスになります。現代詩人の方が展覧会場で詩を朗読するというものになっています。

こちらが、３月２３日の、サーカスアーティストである金井圭介さんのパフォーマンスでして、これは中庭でパフォーマンスをしているところです。

こちらでワークショップの様子などは以上だったんですけれども、展覧会全体を通して、反省する点も含めてすごく勉強になるところが多い催しでして、やっぱり協働することの大変さというか、難しさだったり、例えば、情報共有をしたり、役割分担というのがいかに重要になってくるかというのは、すごく経験として学べたなというふうに思っています。逆に、まねしたい部分というのは、広報であったり、市民ネットワークを生かした動きだったり、フットワークの軽さだったり、そういうところは今後も参考にした上で、これから先、「おはなしのへや」で市民団体とも協働していく機会もあると思いますので、生かしていきたいなというふうに、個人的には思った展覧会でした。

「タマのカーニヴァル」の話については以上です。

続きまして、３ページなんですが、「タマのカーニヴァル」の開催期間中に、「おはなしのへや」という読み聞かせのイベントも行いました。このイベントは前回もご紹介させていただいて、今回、３月１９日に行ったのが第３回になります。これが、１回、２回とも土日に開催したのですが、今回、第３回では初めて平日に開催したということで、実際平日に開催するべきか、土日に開催するべきかというところもまだ試行錯誤している段階だったので、どういった意見があるのかなというのを聞いてみたいという意味もあって、平日に開催いたしました。この日は、にじみ絵というものを行いまして、読み聞かせなどを行った後に、人数も２２名ほど来ていただいて、こういった形で、和紙に水彩ペンでお花というか、点々と点を描いた後に水をスポイトで垂らすと、それがにじむんですけれども、そのにじみを生かして絵を描こうというもので、こういうホワイトボードに張ってある木の幹に、にじみ絵で書いた花を切って張っていくと花が咲くというような、ちょっと凝った仕掛けで行っています。これが実際に子供たちが張ったにじみ絵ですけれども、こういった創作というか、ワークショップのような要素も今回は取り入れて行った「おはなしのへや」でした。

細かいアンケートの回答なども配付しておりますので、どういったところでこういうの

を知ったかというのが書いてあるんですけれども、あまり枚数がないので、ご参考にはならないのかもしれないですが、実際に来たお母さんに、平日に行うのはどうかというふうに聞いたところ、やっぱり土日は父親がいるので、せっかくだからみんなで遠出をしようということで出かけることのほうが多いので、平日がいいですという方もいらっしゃったので、その意見も参考にしつつ、今後の開催時期も含めて、検討していきたいなというふうに思いました。

以上で、平成２５年度の事業に関しては、報告を終了したいと思います。

【山村委員】　２５年度事業の全体の概要と、前回の協議会の後に開催された３月３１日までの展覧会、事業についての報告がありました。何かご質問とか、ご意見とか。

【村澤委員】　アンケートをとっていただいていますように、これは参考になるとは思うんですけれども、ただ、ちょっとサンプル数が四、五人とか、非常に少なくて。ただ、今後も続けていただいて、そういうものが、いろいろ意見が出てくれば、改善するところが出てくると思いますので、参考になると思うので、続けていただけたらなと思いますけれども。もうちょっとサンプル数が多くなるといいんですけれどね。

【山村委員】　これ、でも、２０人参加しているんですよね。

【中村学芸員】　そうですね。回によってばらつきがありまして、アンケートを渡すのも、こごうちぶんこの方にお願いしているときがほとんどなので、渡しそびれるということもたまにありまして、なので、ちょっとまばらな数になってしまっているんです。

【山村委員】　上田委員は、２５年度全体についてはどうでしょうか。

【上田委員】　私、こごうちぶんこというところに個人的な知り合いが多くて、何回かこのワークショップのやじ馬で、見学させてもらったんですけれど、でも、こごうちぶんこというところ自体の悩みでもあるみたいなんですが、年齢がすごく低いんですね。ワークショップに参加する年齢層という感じにしては小さい。でも、親子で美術館を楽しもうという企画としては、やっぱり美術展を一緒に見るほどの年齢ではない子供たちを連れてくるというところで、ちょっとぶれというんですか。両方来てくれればいいという感じなんですかね。ワークショップでお花を描くことを楽しめる年齢の子供たちにも来てもらい、ちょっと絵本とかを、読み聞かせの人が読む絵本を楽しんでいるうちに保護者の方、お父さん、お母さんが美術展を楽しむという、託児といったらちょっと違うのかもしれないですけれど、そのぐらい小さい子供たちの人たちが来るのか。多分、両方が来てくれると、兄弟で興味が違うということもありますしね。そういうふうに成立していくと、いい感じ

になるんじゃないかと思うんですが、何しろここの、さっきのアンケート数がという話もあって、少ないので、どちらかというと、小さ過ぎる、すごく小さい子たちに寄っているのかなというふうに見受けられた感じです。

【山村委員】　　その辺は、事務局としては、未就学児など客層のねらいというか、その「おはなしのへや」の考え方ってどうなんですか。

【中村学芸員】　　一応こちらも、「おはなしのへや」の募集の書き方というか、年齢の対象は多分３歳児から小学生というふうに書いています。ただ、「３歳児」と書いているので、未就学児のほうが何となく印象として多いのかなというふうに受けてしまう方も多いのではないかなと思います。例えば、対象を少し上げて書くと、それなりに上がると思いますし、ただ、あまり絞りたくないというのもあって３歳児から小学生というふうには書いているんですけれども、すごく難しいと思うんですが、３歳児の子ができることと小学生の子ができることって多分違うと思いますし、興味も違うと思いますし、それをうまく両立するためには、もっとプログラムをこちらで考えないといけないなと思うんですけれども、一番この事業で大切にしたいというのは、やっぱり継続していくことだと思っているので、あまりそういうプログラムの幅を広くすることで、市民の方々の負担だったり、例えば美術館の人員の負担だったりというのが大きくなってしまうのは、逆にこれを続けていく意味では難しいのかなというふうに思うので、例えば、幅を広げるのであれば、今日は小学生デーとかというふうに思いきってその日限定というか、分けてしまうほうが、こちらの運営側としてはやりやすいのかなと思っております。

【山村委員】　　ただ、今、上田委員がおっしゃったとおり、お兄ちゃんとちっちゃい子供で、興味の対象が違うという事に対する方策は……。

【中村学芸員】　　実際に兄弟で来られている子も多いので、そういう子たちでも楽しめるよというのを、こちらの広報としてもっと伝えていけばいいのかなとは思います。

【山村委員】　　私も１個だけ。やっぱり２５年度という総括になると思うので、展覧会のほうは５,３４９人ということで、これが前年度、前々年度に比べてどうなのかということをちょっと聞きたいのと、それから、教育普及のほうは、イのほうなんですけれども、どこが全体になるのかわからないんだけれども、総人数を教えてください。それから、ここ２年との比較を知りたいので、教えてください。

【荒木学芸員】　　展覧会の人数、昨年、平成２４年度は４,１２５人でした。ただ、これは改修工事があったので、展覧会の本数が３本と今年よりは１本少ない数字になっていま

す。

　済みません、平成２３年度に関しては、ちょっと今わからないのでお答えできないんですけれども。

【山村委員】　　教育普及のほうは、鑑賞教室だけが８８０人ですね。

【荒木学芸員】　　はい。総数は今出てきませんけれど、教育普及事業に関して今年度は多目的講義室のオープン記念のワークショップというものが入りましたので、前年度、前々年度に比べまして、開催した本数が多くなっています。あとは「おはなしのへや」。さらに「タマのカーニヴァル」はワークショップなどのアクティビティーが中心、肝になっている企画ということもあって、そちらのイベントも加わり、イベントの本数自体がかなり多くなっています。従来の展覧会に追随するワークショップにつきましては、ほぼ例年どおりになっています。大体１回のワークショップにつき、平均すると、１０人程度。この表の事業のうちですと、「おはなしのへや」とオープン記念ワークショップというのが２５年度に新たに加わったものになります。

【山村委員】　　ということは、２４年に比べて、多目的室もできて、ワークショップも増えて、展覧会のほうも、３本から４本に増えたという。

【荒木学芸員】　　通常の展覧会のほうは平年並みに戻ったということで、前年度よりは増えています。

【山村委員】　　ということで、全体の入館者も、教育普及の参加者も増えているという。学芸員さんとか事務局にとっては、どうでした？　大丈夫ですか。

【中村学芸員】　先ほどもお話しさせていただいたように、平成２５年度は、ＮＰＯであったり市民団体と協働するという形がとれたので、ワークショップの本数であったり、企画展というのは増えたんですけれども、そこでうまく連携というか、協力の形がとれたのでやっていけたのかなというふうには、個人的には感想としてあります。

【鉄矢会長】　　２５年度の振り返りということでほかにございますか。ないですか。大丈夫ですか。では、次第の７番、「平成２６年度予算について」。事務局から説明をお願いします。

【事務局（吉川）】　　横長の、「平成２６年度予算状況」という表をつくらせていただきましたが、平成２６年度、今年度の予算と、去年の２５年度の予算を比較しまして、右側に予算増減額をつけてあります。助成金をもらえることを前提に、多少２５年度よりかは増えている分があるんですが、これは、助成金がもらえるということプラス、１本企画展

がとれましたので、その分が認められて、事業に要する経費などは増えていますが、反面、当館を維持管理していく予算――お掃除であるとか、そういう日常経費の予算は削られております。また、緑地のほうも、これだけ緑が多いものですから、秋の落ち葉の問題であるとか、ご近所からいろいろ苦情が来たりはしているんですが、なかなか全部には対応できませんので、今ある予算でやっていくしかないかなというところでありますが、ここも微妙に減っております。

今年度の事業の予算に関する特徴なんですが、後ほど話があると思いますが、今年度も一般財団法人地域創造から平成２６年度市町村立美術館活性化事業の第１５回共同巡回展ということで、助成をもらえることになっております。今年度は、広島県熊野町の筆の里工房、岐阜県大垣市スイトピアセンターと、当館小金井市立はけの森美術館で、そこに書いてあるとおり、１,２００万円上限で、助成金が全体の事業の３分の２出るということになっております。

それと、ずっと作成できずにいました年報が、今年は予算がどうにかつきましたので、２３年から２５年度までの年報を作成したいと思います。

あと、当館が参加しておりました多摩ミュージアムネットワーク研究会というものが、市長会から助成金をもらっていたんですが、自立しなくちゃいけないということで、会員各館から運営費を年会費の形で供出することになりましたので、年間３,０００円の年会費を供出して、みんなで運営していくことになりました。

というのが今年の事業に関する特徴で、コミュニティ文化課のほうでかなり助成金を獲得しているのですけれども、東京都などは、やはり例年同じ事業に対しては出してくれなくなってきましたので、今年度はこの地域創造の助成金があってどうにかというところもあるんですが、年度末の企画展の広報費、印刷経費などが削られてしまっておりますので、その辺なども今、学芸員と相談して、今年度、今から申請できる助成金などのアタックはしております。なかなか財政状況が厳しいのと、来年度どう助成金を獲得していこうかなという悩みもありますが、今年度についての予算状況はおおむねこんな感じです。美術館の事業が多少認められているのかなという部分と、でも、やっぱりわかってもらえていないなという部分と、両方が見られるような予算状況ですね。きれいに美術館を保っていかなくてはいけないということに関しては、なかなか難しい部分がありますね。維持管理経費が減らされてしまっていることについては、職員もお掃除をしろということ――全然しないわけではないんですけれども、なかなかプロの方がお掃除するのと私どもがお掃除す

るのと違ってきますし、ほこり等々、一番美術品にはよくないものですから、その辺のところをわかってほしいなとは思うのですけれども当市の財政状況も厳しいので、今は難しいということですが、頑張ります。

以上です。

【鉄矢会長】　何かご質問等、ございますでしょうか。ご質問またはアドバイス、あるいは話。

【村澤委員】　質問。経費が減らされた分というのは、どこを減らすというか。大丈夫なんですか。

【事務局（吉川）】　大丈夫じゃないんですけれど、結局それをのまないと予算全体がつかないですから、微妙に減らされた分をどうフォローしていくか考えるという感じですね。

【平岡館長】　いわゆる消耗品とか維持管理の部分で一律カットされるという傾向が以前からありますので、例えば委託をかけているものについては、去年契約したのと同じ金額でなければ、それ以上は望めないであるとか、光熱費は一律何％前提でお願いしますとか、そういうような考え方を市全体で持っているので、そういった中で、我々もそれにのっとって要求をしないと、増額しても一律その基準で落とされるということになるものですから、それで維持管理に要する経費というのが概ね１５万ぐらいですか、削られてしまっているというのは、そういう事情です。

【村澤委員】　電気代とかって、自分のうちもちょっと上がっていますけれど、事業所も多分上がっていると思うんですけれど、そうすると、今までどおりやっていると、多分電気代がそれだけでも上がっちゃうかなと思うんですけれど、例えば、蛍光灯を間引くとか、そういうのとか、やっているんですか。

【事務局（吉川）】　職員が努力しております。

【村澤委員】　そういうことですよね。

【事務局（吉川）】　収蔵庫とか展示室には空調を入れているんですけれども、事務室は省エネと。あと、エントランスは省エネとか、あと、大変申しわけないんですけれど、おトイレがちょっと今、冷たいかもしれませんが、ああいうところを省エネというような、そんな細かい努力はしております。

【平岡館長】　展覧会をやっていないときは、空調とかもかなりつらい状況になっております。

【山村委員】　でも、前年同額はいいほうだよ。府中は５％マイナスして、またさらに

消費税８％かかってくるから、すごく打撃ですよね。しかも電気代がすごくかかっているからね、年間通すと。

【鉄矢会長】　今度１０％になっちゃうって、ちょっと怖いですよね。

【薩摩学芸顧問】　鉄矢先生のところの大学も、毎年交付金、減っているんでしょう。

【鉄矢会長】　減っています。

【薩摩学芸顧問】　独立行政法人の国立大学は、今のところ毎年交付金が３％ずつ減っているんです。いつまでこれが続くのか。そこへ持ってきて、税金が８％、今度１０％ということで、うちの美術館も事実上、ほとんど夏は展覧会はできない、電気代も節約ということで。もともと大学なんで、初めから休めということなんで、何で使っているんだという批判もあったんですけれど、こっちは、どっちかというと、できればやりたいですけれど、そういう状況。

【鉄矢会長】　美術の森の維持管理というのは、すごく大変ですよね。これ、緑と水の森林基金とか、林野庁系の緑と水の森林基金は、緑に関するワークショップをやれば、１００万ぐらいまで出て……。ただ、それは市が出せるのかどうかわからないですけれどね。

【事務局（吉川）】　そうですね。難しいんですよね。これだって多分環境の団体さんとかになるのかわからないんですけれども、芸術のほうも、芸術の団体さんが出すものと、公共の、公立が出すものと……。

【鉄矢会長】　ただ、大学は出せたんですよね。大学の研究室はとれたんで、場合によってはとれるかもしれない。

【事務局（吉川）】　研究してみます。ありがとうございます。

【山村委員】　ちょっと細かいことを言うと、多摩ミュージアムネットワークは、公益財団法人の東京市町村自治調査会のほうから、東京都市長会の政策提言を受けて、抽出される補助金、助成金で、その助成金を使って、丹青研究所にいろいろと委託をして、それで事務局やってもらったという経過があるので、それがなくなったということなんですね。今年というか、去年、２６年度の助成を得るためにいろいろ書いたんですけれども、やっぱり同じ構成、２６市の中でいろいろ組み合わせを変えていきながら、違う団体、違う目的のところでないと出ないという話だったんで、美術館で、２６市が組んでやっている、そんなには組み合わせは変わらないので、計画書が出なかったということですね。また何か手を考えます。

【上田委員】　多摩ミュージアムネットワーク研究会というのは、何をやっているんで

すか。

【山村委員】　　去年までは、スタンプラリーとか、それから、ホームページとか、いわゆるツイッターとかＳＮＳを使って、多摩地域全体が、いろいろな美術館があって、そこをラリーしながらいろいろな展覧会を見ましょうよという、いわゆる広報活動が主でしたね。その中でも、多少余裕、助成金があったものですから、ホームページの中でウェブミュージアムとか、つまり、お互いに、自分たちの所蔵品の写真とか解説の文章を見せ合って、架空の多摩広域美術館みたいなものを立ち上げるとか、そういうことをやっているんですね。目的は、あくまでも広報的な、多摩地域というのはいいところですよというか、美術館があって緑もあっていいところですよというところが目的でした。

なかなか多摩地域に来て、美術館に行くかといったら、そんなに多くはない状況の中で何とかという、みんなで頑張ろうみたいな、そういうところだったんですね。だから、今もそういうつもりで、わずかのお金を出しながら、年に三、四回集まってもらって。だから、事務局もその都度移動しながらやっていこうと思っています。

【鉄矢会長】　　では、よろしいでしょうか。どうやら時間も来ていますけれども、８番（１）、（２）、（３）、これ、一度に説明していただいて、それで後で質疑という格好にしたいと思います。

【中村学芸員】　　先ほど見ていただいた、所蔵作品展「日々の花々」を、３月２９日から６月１日まで開催しております。関連企画のほうが、無料観覧日が５月１１日日曜日にございました。こちら、５月１４日の中村研一の誕生日を記念して開催したもので、入場者数が２２６名でした。

ほかに関連企画として、先ほども説明しました、こごうちぶんこに協力していただいている「おはなしのへや」を２回開催しまして、１回目が４月２６日、こちらは「ゆびで花を咲かせよう！」というもので、パステルを削って粉にして、花を描きました。参加人数、３７名でした。

続きまして、５月５日には、「野菜でぺったん！　こいのぼり」ということで、野菜を判こにして、こいのぼりをみんなでつくるワークショップを、「おはなしのへや」の読み聞かせの後に行いました。こちらの人数が１４名ということで、リピーターの方がいらっしゃったり、新たに新規で来られたりという方もいらっしゃったりということで、広まってきているんだなというのを実感することができました。

続きまして、「“けんぼしゃん”とあそぼう！」という、毎回行っているコラージュのワ

ークショップもやりました。こちらは５月３日に行ったんですが、花の展覧会を行ったので、花をテーマにしたもので、メッセージカードをつくって、こちら、参加人数は１２名で開催しました。

今回の展覧会は、ポストカードがなぜかすごくよく売れているなという印象があり、花のセットのものがよく売れているんですけれども、先日、５月１４日の中村研一の誕生日の日に、朝日マリオンのほうにも展覧会を紹介していただいて、大宮や横浜、関東の近県のところからも来ていただいたりということで､好評をいただいているのかなと思います。

続きまして、５ページ目にあります､「ギャラリーツアー＆コラージュで作る『好きだ。箱』ワークショップ」Supported by 中央線が好きだ。」のご説明をさせていただきたいと思います。先ほど、吉川からも配付資料の説明ということで､『中央線が好きだ。』マガジンのほう、地上絵、小金井市の５５周年事業が載った記念で、こういった美術館でのワークショップを行いました。こちら、ギャラリーツアーを行った後にワークショップを行うというもので､『中央線が好きだ。』の「好きだ」にかけて、自分の好きなものを詰め込んだ箱をつくろう、コラージュしようというものでして、ちょうど中村研一の、自分の好きなモチーフである花を描いているのを展示しているというのもあって、自分の好きなモチーフだったり表現を箱の中にしていこうというものだったんですけれども、ちょっと広報が､こちらの読者限定ということで､あまり芳しくなくて､参加人数は７名ということで、多くはなかったんですが、こういった、今、ここにあるように、皆さん、それぞれ個性的な箱をつくっていただいて、かなり保護者の方も熱中してつくっていただいたので、いつもは平面のものばかりコラージュをやっているんですけれども、立体のほうが、例えばクリップだったりとか、ちょっとおもしろいものができるなというふうに、つくってみた印象で感じたので、今後もこういう立体のもののコラージュを、猪熊弦一郎展でも対話彫刻とかがありますので、展開していけたらいいのかなというふうに思いました。

開催した事業に関しては、以上です。

【山村委員】　　この冊子の読者限定というのは、どういった内容の……。そういうことってあるの？

【事務局（吉川)】　　それは、実はＪＲの冊子で、そこに市のほうで特典をつけてくれって言われたんですね。本当だったら、白線のワークショップをやればよかったんですけれども、当課でやれるワークショップをやろうということがひとつと、ついでだったらはけの森美術館もその中で宣伝しましょう思って、わざわざはけの森美術館のワークショップ

を入れたんですけれども、なかなか冊子が、小金井市が舞台なのに、小金井の駅に置かれなかったんですよ、ポスターも張っていなかったので、市長が２回もお願いに行って、張ってもらったんですけれど、ワークショップが終わってからどうも武蔵小金井駅に冊子が置かれたみたいで、その件に関しては、制作会社のほうに私、文句を言ったんですけれど。何か提供してくださいって言われたのに、全然そっちが宣伝していないじゃないのよということは一応言ったんですよ。毎号、何か無料で読者が行ける特典ワークショップをつけているんですけれど。うちのはちょうど本当にタイミングが悪くて、冊子を見てもらえていないという感じだったですね。ずっと中央線沿線、私は見て歩いていたんですけれど、この近辺は全然置いてなくて、荒木が水道橋の駅で見つけて、持って来てくれたのですが、だから、一番人が来そうな吉祥寺から国分寺の間に冊子がないというのはどういうこと？といって、私は、企画をした会社には文句は言ったんです。

【山村委員】　　ということは、駅長さんとか、そういうのは全く関係なしに、この委託を受けている会社のほうが勝手に企画をつくっているという話なのね。

【事務局（吉川）】　JR 東日本八王子支社の事業なので、そんなに適当にやった企画ではないです。結構ＪＲが気合いを入れてつくった企画なんですが、ちょっとワークショップのほうは残念な結果でしたという。

【山村委員】　　わかりました。

【鉄矢会長】　　では、２６年度の展覧会の予定についてです。

【荒木学芸員】　　今の展示が６月１日に終了しまして、その後、おそらく休館期間に入ります。まず大きなところで、展覧会のほうから。

先ほどから話に出ていました、財団法人地域創造から助成を受けての共同巡回展。今年は、「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵作品による猪熊弦一郎展～どんなことをしても僕なんだ～」という展覧会を行います。特に今回は、この全国３館の共同巡回展の事務局を当館が担当しておりまして、その関係で、最初の開催会場の広島の展示の立ち上がりの段階から、当館もかかわっております。先週末に丸亀の猪熊弦一郎現代美術館で作品の点検、借用の作業があり、それに私も立ち会ってまいりまして、昨日戻ってきたところです。そしてこの週末、３０日に、広島の筆の里工房で、巡回で全体の総合開会式が行われまして、当館からは、実行委員長である平岡館長、事務局長として吉川、担当学芸員として私が出席いたします。そちらが終わってから、当館に巡回することになっております。お手元にお配りしましたように、既に当館の独自のチラシもでき上がっております。こちらも、徐々

に他の美術館や、市内や近郊の関係機関に配布してまいります。

【鉄矢会長】　　あと、１０月のⅠ期、Ⅱ期ですね。１０月にⅠ期、Ⅱ期が１２月から。

【荒木学芸員】　　その後には、秋に所蔵作品展を予定しておりまして、前年度でも少しお話ししていましたが、２つの企画展の時期とすり合わせた結果、数年ぶりに、Ⅰ期、Ⅱ期に分けて、一部の作品は継続して展示するけれど、半分以上の作品を入れかえ、テーマを変えるという形で考えております。こちらもまだテーマを詰めているところでして、おそらくⅠ期、Ⅱ期通しで展示するものは、当館の名品展というか、ベストセレクションのような内容になるかと思います。「これは出ないんですか」とリクエストがあるようなものですとか、絵はがきでよく売れているような作品といったところが中心になるかと思います。その一方で、Ⅰ期、Ⅱ期と分けて、水彩などの長期の展示には耐えられない作品は入れかえたりしながら、それぞれの時期で違う小テーマを設けたりということで、変化をつけていくということも、今計画しております。

そして、年度末には、企画展を１本。これは、来年度に、年度をまたぐ形で考えております。「生誕１２０年　河野通勢と中村研一」、どちらも生誕１２０年、どちらも小金井で後半生を過ごした画家ということで、この２人を組み合わせた展覧会を企画しています。

【鉄矢会長】　　続けて、教育普及事業をお願いします。

【荒木学芸員】　　日程が前後しますけれども、６月に展示のほうが休館している間に、１つワークショップを企画しています。「段ボールでタイコをつくろう！　リズムをつくろう！」というワークショップです。講師が森の楽団工作隊。こちら、ＮＰＯ法人アートフルアクションと、前年度に「タマのカーニヴァル」で連携し、今度はまた違うやり方を探ってみるということもありまして、単発のワークショップで連携してみようということと、最近はこの多目的講義室ができて、わりとこの中で完結するワークショップが多くなってきたので、今度は久しぶりに展示室も使った、スケールの大きいものをつくるワークショップをやってみたいということもあって、このような太鼓をつくるというものになりました。これから募集を始めるところです。

５番の「おはなしのへや」、こちらも今年度も継続して行うということで、まずは８月２１日に決定しています。この後についても、今年度中、あと数回は開催するかと思いますが、また展覧会の日程と突き合わせながら決めていくことになると思います。

【中村学芸員】　　鑑賞教室が、今年度も小学４年生の方々に来ていただくことになっていまして、日程ですが、５月１３日は既に南小の小学４年生の子たちにこちらに来ていた

だいて、展示を見ていただきました。今週、５月２９日の緑小がありまして、その後に３校が企画展を見た後に、所蔵作品展を両方見ていただくということで、今年度も継続して行っております。

最後に、７番の単独ワークショップですが、こちらの内容はまだ未定なんですが、２月中旬ごろに行いたいと思っています。

教育普及事業に関しては以上です。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。８番まで行きましたので、質問、もう少し深く解説が必要だとか、いろいろありましたら、お願いします。

以前、村澤委員、おっしゃっていましたね。前期、後期じゃないけれど、２期に分けたときに、どうやって２回行かせるのかというところ……。

【中村学芸員】　それもまだ考えている段階なんですが、Ⅰ期に来ていただいた方に、カードとかしおりみたいなものをお渡しして、Ⅱ期に来ていただいたときに、それを見せていただいて、スタンプなりを押して、そのときにポストカードとかをお渡しするというような……。

【鉄矢会長】　多分、今、それはこういう、もので釣るほうですね。もので釣るんじゃなくて、内容で。私は、だから多分内容で、実は学芸員がこうやると、中村研一、こう見えるけれど､同じものとちょっと違うものをつけると､こんなふうに見え方が違うよって、見てごらんって見せられたらおもしろそうな、比較ができたら。そうしたら比較したいなと思って、自分の目で見てみたいとは思うなと。

【荒木学芸員】　まず、Ⅰ期、Ⅱ期で、少なくとも、入れかえる分の担当は、中村と私で分担する。担当者が違うので、選択が変わってくるということで、今、お互いに少しずつテーマを出し合っていて、そこでどうコントラストをつけていくかというのを検討しています。

【鉄矢会長】　そのコントラストがあるよなんていうのを自信を持って出して、さらしていただくと、鑑賞者としては、見に行って、「おお」と思うよ。

【荒木学芸員】　チラシなどもそれこそ二つ折りで、表裏で違うようなものにしたりということも考えています。

【鉄矢会長】　楽しい企画、お待ちしております。

【薩摩学芸顧問】　Ⅰ期とⅡ期のⅠ期が始まった段階で、Ⅱ期の構想が全部でき上がっていて、ちゃんと出品作品、あるいはまさにチラシを裏表でⅠ期目とⅡ期目にするか、あ

るいはもうちょっとぜいたくにするか、Ⅰ期のチラシの段階でⅡ期の情報がきちっと提示されていると。Ⅰ期とⅡ期の違いがぴしゃっと見えると。それが　　。

【荒木学芸員】　　チラシをつくる段階では、両方の内容やある程度の作品は決めてある状態です。

【上田委員】　　さっきちょっと思ったんですけれど、長期の展示に耐えられない水彩画などというふうにおっしゃって、そういうので変えるんだって素人してはちょっと思うので、そういう情報が入っていると、貴重なのが見られるのねという気がするかもしれないです。

【鉄矢会長】　　今日時間がないので、また今後いろいろ話を聞きたいなと思っているのが、いろいろ音の出るものがいっぱい入ってきたり、今、多分、美術館がいろいろ揺れ始めているような気がしていて、揺れ始めているといったらおかしいんですけれども、いろいろなことに手を出しているような気がするので、その中で、学芸員さんが今どんなふうに運びたい、この美術館をどちらに運びたいのかなというのを少しずつ考えていただけるといいのかなと思いました。アートフルアクションさんが音を出すものをどんどん持ってきているような気がするんですけれど、どんどん持ってきているのをただ受け取っているだけなのか、意図的に仕掛けさせているのかとか、いろいろなものが見えてくるともっとおもしろくなるような気がしたので、意見でした。

　済みません、議事進行なのに、コメントしました。次、何かございますでしょうか。ほかに何かありますか。

　では、次回予定でしょうか。猪熊展が７月１９日に始まった後がいいんですね。では皆様のご都合で７月２３日といたします。

【平岡館長】　　その他ですが、先だって他市の議会の方が視察に来まして、美術館も見たいということで、８人ほど、大阪の茨木市の方をご案内して、大変ご満足して帰られましたので、ご報告だけさせていただきます。

【鉄矢会長】　　何を注目したんですかね。

【平岡館長】　　もともと、こちらから議員が視察に行く機会があったりしていて、何となく交流があったように聞いていまして、それで、芸術文化振興条例ですとか、そういった部分をあちらのほうでも若干気にとめていらっしゃったことがあって、それとあわせて美術館も見たいということでお越しになられて、条例のお話も若干したんですが、美術館のほうは大変満足されて帰られました。

【事務局（吉川）】　先ほど、上田委員がおっしゃっていたように、もともと作家が住んでいたところが美術館になっている。ここもちょっと面変わりしちゃったんですけれども、サロンのところなんか一部残っていますから。やはりああいうところ、すごく感心されていましたし、「ここは実はこの辺に大理石のお風呂があった」みたいなエピソードをお話したら、そうなんだ、良い使い方をしているということで、大変感心されて帰っていかれました。

【薩摩学芸顧問】　　茨木市って、人口どのぐらいの。

【平岡館長】　　人口の規模はうちの数倍多い状況ですので、単純に比較は難しいのかなと。文学者の記念館があったりですとか、さまざま、こちらよりもいろいろな資源をお持ちのようだったんですが、たまたまちょっと目にとまったようで、町田市に行かれた後、こちらに見えたということなんですが、お越しになりたいというお話がありまして、対応した状況でした。

【薩摩学芸顧問】　　人口１０万とか、二、三十万ぐらいの市だと、私も幾つかの委員をやっておりましたので、なかなか、全くゼロから美術館とか何かをつくろうということができないところが多いんですよね。そうすると、作家の自宅だったところとか、あるいはそういうところをどう有効活用してこうかということは、よく考えるんですよ。だから、そういう視点から見たときに、ここはいろいろと問題があって、ふらふらしているところがあるとはいえ、とにもかくにも８年、こういうふうに維持してきたというのは、実績にはなっているんだろうと思います。

【鉄矢会長】　　わかりました。

　では、平成２６年度第１回小金井市立はけの森美術館運営協議会、閉会したいと思います。ありがとうございました。

―― 了 ――